

質問 1-2 大戸川ダム建設費用はどれくらいでしょうか。

(回答)

○ 大戸川ダムの概算事業費は、以下のとおりです。

1. 現行計画に基づく事業費 約 740 億円(昭和 63 年単価)



2. 新計画に基づく事業費(平成 19 年度単価)

- ・ 洪水調節専用ダムの建設に要する額 概ね 1,000 億円程度  
(内、平成 20 年度以降残事業費 概ね 480 億円程度)
- ・ 利水(不特定を含む)が撤退することにより不要となる額  
概ね 80 億円程度

※今後、地質や設計の精査等によりダムの堤体積等が変更となることがあり得るため事業費は現時点(平成 19 年 12 月 20 日)の概算額である。

なお、撤退利水者等のみに関わるもの(概ね 80 億円程度)を含むものであり、また概ね 40 億円程度のコスト縮減を行った結果の額である

○ 概算事業費の変更要因は、以下のとおりです。

1. 物価上昇及び消費税導入(3%)及び税率の上昇(3%→5%)によるもの  
概ね 90 億円程度の増

2. 工事内容等の変更に関するもの 概ね 20 億円程度の減  
(主な要因)

・ ダムの構造変更による減

利水の撤退を踏まえ、洪水調節専用ダムとしたことによりダム型式を流水型とし、併せて貯水池容量が減少したことによりダムサイトを地形・地質上有利な位置に変更したことによる堤体規模の縮小等による減

・ 設計基準の変更による減

所要の岩盤強度及び止水性確保について、より経済的な設計としたことによる減

・ 原石山の廃止による減

コンクリート骨材採取計画の変更(事業調整による他事業の廃棄岩の活用)

3. 用地補償及び補償工事関連によるもの 概ね 270 億円程度の増  
(主な要因)

・ 補償基準確定等による増

補償調査実施に伴う補償対象地の増及び想定した損失補償基準の補償単価に対する実勢価格との差による増(近隣の取引価格の高騰による増)

・ 付替道路の計画変更による増

道路構造令の改正(歩道幅員の拡大)、道路橋示方書の改定(橋梁耐震設計基準の見直し)等に伴う道路構造の変更等による増

- 概算事業費は、具体の工事实施に伴う変更などの不確定要素があるものの、今後大きな増加はないと見込んでいます。また、今後の事業実施の各段階において施工計画の合理化等により、さらなるコスト縮減を図っていきます。

(関連資料)

- 平成 19 年 12 月 20 日 近畿地方整備局 記者発表資料 淀川水系河川整備計画原案における各ダムの概算事業費とそれを踏まえた治水対策の進め方について  
<http://www.kkr.mlit.go.jp/scripts/kisha-uproad/index.pl>
- 平成 19 年 12 月 27 日 第 69 回淀川水系流域委員会 審議資料 1-6  
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index.html#67th>

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。